

岐阜県嚥下障害研究会

モグモグ通信

No. 9 (2007. 5 発行)

今年度の研修会スケジュールを掲載しました。皆さん、ご確認下さいね。



発行所: 岐阜県嚥下障害研究会
事務局: 木沢記念病院 ST室

コーディネーターとしての視点



大崎市民病院 (宮城県)
(前 岐阜県立多治見病院)
小児科 医師 岩城 利充

岐阜県嚥下障害研究会が、今年で発足10年を迎えるとお聞きして、岐阜県にとって

重要なこの研究会を創設し維持して来られた豊島会長ならびに多くの理事の方々に深く敬意を表します。

2004年創刊の『モグモグ通信 No.1』に豊島会長が「研究会発足7年を迎えて」と題して、本研究会を発足させた経緯と現況等を「会員数400余名、医療・保健・教育・福祉分野より多職種が参加、摂食・嚥下障害児者のQOL向上に向け尽力中…」と述べられています。また、『モグモグ通信 No.2』では 朝日大学の玄先生が「医療関係者が摂食・嚥下機能を含めた適切な医学的評価を十分に行いQOLも含めてアプローチする必要がある。また、介護と医療の現場において双方が理解・協力し合えることにより患者様がより安全に楽しく食べることができる。その場を形成するためにも、本研究会の果たす役割は重要と考える…」と論じておられます。二つのエッセイともに、当岐阜県嚥下障害研究会のまさに中核的な活動に言及したものです。

また、本研究会がこれまで行ってきた講習会、講演会、症例検討会の内容を一覽しただけでも、摂食・嚥下障害をポジショニングや脱感作等々の理学療法的・作業療法的なアプローチも行いながら口腔衛生を含む多角的な視点で捉え、さらに小児の場合では脳性麻痺児の生活支援、軽度発達障害および広汎性発達障害児への対応等、障害を持つ方々一般に向け広く目配りがなされていることに感銘いたします。これほど多様な研修内容が、日々現場で障害児者と

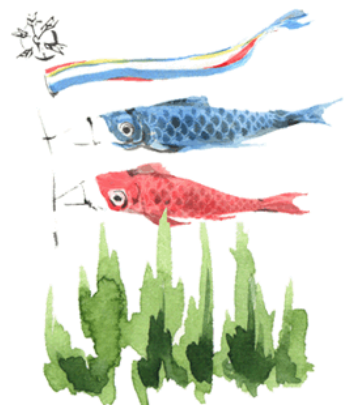
対応する多職種の方々に対して行われていることは岐阜県下の成人の患者様のみならず、障害児の療育にとっても極めて重要です。

そうであるからこそ、様々な障害を有する方が医学的な問題に加えて、日々どのような問題と向き合っているのかを理解・把握しておくことがなお一層重要ではないでしょうか。病院では「病気ではなく、病気を抱えた人間を診るように」と言われてきています。リハビリテーションを行う時も、同様に障害を抱えて生活している人間、人生を見通す力が求められているのではないのでしょうか。

この研究会に集う方々が、患者様方の福祉上の、教育上の社会的問題を一通りわきまえておけば、皆様自身が、患者様方の有用なコーディネーターになることができるといえるでしょう。患者様は、意外とご自分の持つ問題について自己認識と解決法についてうといことが多いのです。コーディネーターが必要な由縁です。

私は、多治見地域で在宅の障害児とご家族を主に福祉面、また教育・療育面でサポートする会に関わって丸10年になります。この『市民児相サービス懇話会』での活動を毎月1回続けてきたことで、障害を持つ児を抱えるご家族が向き合ってきた問題の多様さに気付かされ、茫然たる思いをすることがあります。

皆様に、より広い視点から、患者様のコーディネーターとしての認識も持っていただければ、どれほど助かる人がいるだろうかと思えます。最後に、そのことをお願いして、本稿を閉じさせていただきます。



成人勉強会 レポート



者さんたちに痛い思いをさせていたんだ！聞いたとおりにやると出血もしないんだ！」と自分の歯磨きも満足に行えていなかったことを反省しました。“歯磨き剤を付け泡だった感じがしないとすっきりしない。ゴシゴシ音がしないと磨いた気がしない。”といった自己ア

口腔ケアのポイント

社会福祉法人いぶき福祉会 コラボいぶき 白木 寿子
12月9日(土)に木沢記念病院で開催された「口腔ケアの実際(第3回目)」に参加しました。訪問歯科衛生士として活躍されている栗木みゆき先生の講義だったので、実際に実技演習できることを期待し、楽しみにしていました。私は、重症心身障害児者通園施設の看護師として勤務しています。施設には歯科衛生専門学校生徒さんが月に2回、ブラッシングボランティアとして来ていただいておりますが、職員私たちに十分な知識がなく、生徒さんに教えていただきながら口腔ケアをしているだけで、日々の対応をしていました。

ブラッシングのポイントを学んだ後、実際にペアになり歯ブラシを当ててみて、「今までは力が入りすぎて利用



レンジの間違った歯磨きを何十年と続け、毎回歯肉より出血し、今回も歯科衛生士さんに「炎症を起こしている」と指摘される状態になっていました。

“磨く時は音をさせない。舌のケアも必要。口を大きく開けなくても歯磨きはできる。舌下腺からはサラサラの唾液が分泌されるので、顎を動かすことが必要！”など、目からうろこの話を沢山聞いて大変参考になりました。

実際、毎食後は自分でも気を付けて歯磨きできるようになり、出血もなく健康な歯肉になってきています。まずは自分の歯磨きを改善し、次は利用者さんの口腔ケアです。毎回、学んだことを思い出しながら歯ブラシを当てています。学んだことを十分には発揮できてはいないと思いますが、いつも頭の片隅に置き、今後も繰り返し勉強しながら自分のものにし、“快適な歯磨き”を心がけていきたいと思っています。

(12月9日 42名参加、毎回大好評！口腔ケア実技研修会“第3弾”実施、講師：多治見市訪問歯科衛生士 栗木みゆき氏・細井ゆかり氏・朝川世津子氏)

第1回成人勉強会 回想

岐阜県立陽光園 ケアワーカー 笠原 佐知子
平成18年7月8日、朝日大学において関中央病院院長、齋藤雅也先生の講義がありました。「関中央病院におけるNSTの取り組み」をテーマに、とても貴重なお話をいただきました。病院内だけの話に限らず、関連の介護施設での現状も挙げてくださり、身体障害者施設のケアワーカーとしては非常に身近な思いで聞かせていただきました。

その中で、先生の「忙しいと言う前に医療従事者(私たちは福祉従事者ですが)としての使命とやりがい、達成感は何か、を考えよう」との言葉に、強い衝撃を受け、言葉を失いました。さらに、施設の問題点として看護師の勤務体制、ワーカーの認識不

足などマンパワーの不足を指摘され、施設トップからの意識改革の重要性を説かれた時には、果たして今の私たちに何ができるのだろうか…と考えさせられました。

本来、先生はNSTの取り組みを通して、栄養状態を改善することがいかに嚥下障害の訓練や褥瘡予防に有効か、そして何よりもチームアプローチが大切かを伝えたかったのだと思いますが、そこにたどり着くまでに多くの課題が残されていることに気がされました。

ただ頭を抱えているだけでは始まらないので、地道に末端から取り組みを広げて一人でも多くの職員に理解と必要性を分かっていただけのように、話をし行動していきました。その結果、施設内の有志で立ち上げた自主研究のグループに 管理栄養士、看護師

にも加わっていただき（NSTとまではいきませんが・・・）、施設内での異職種によるチームを作ることができました。

最終的には、全職員が一丸となってケアできるような取り組みにし、利用者様のQOLの向上に繋げ

ていきたいです。私たちの取り組みはまだ始まったばかりです。大きな志を持って一歩ずつ前に進んでいきたいです。



日々勉強！

名古屋市北部地域療育センター 保育士 田中 聡子

私は、知的障害児通園施設でつとめ始めてまだ1ヶ月です。日々の療育の中で食事の大切さ、口から食べ物をとることの難しさを痛感しています。その中での勉強会でした。

午前、養護学校での実践発表を通じたグループでの話し合いは、グループ内の他職種の方の視点から「そうとらえるのか!」、「そういう見方があるんだ!」と新しい発見を沢山させていただけました。そして、午後は 実際にお子さんとお母さんをお招きしての食事指導でした。どうやってアプローチすれば、よりよい食事場面が提供できるのか・・・、「とても難しいなあ～」というのが正直な思いでした。

「よりよい姿勢を保持するため」、「モグモグしてゴックンするため」の技と知識のフル活用を見させていただきました。そんな先生方のこれまで積み重ねられてきた知識と経験からくり出される手の動き、口



グループ発表風景

への食べ物の運び方、姿勢のとらせ方などのアプローチのひとつひとつが生きた教科書! 本を読んだだけでは得られない技術とお子さんと向き合う姿勢を学ばせていただきました。

今回の小児勉強会に参加し、「食事」は子どもたちにとって生活の中で深い意味があるのだとあらためて痛感しました。また、療育・保育のプロとして子どもたちによりよい食事場面を提供するためにもっと勉強していきたい!!と 勉強会を通じて強く感じることができました。やはり、毎日「日々勉強」なんだあと目がさめるようでした。

今回の勉強会を開いて下さり、本当に感謝!!です。ありがとうございました。

(3月3日 症例検討会開催、参加者38名。発表者：大垣養護学校 教諭 杉山吉博会員、ポッポの家 保育士 村瀬和子・役田映子会員)

耳寄り中上級研修会

【朝日大学付属病院 摂食・嚥下障害研究会】

開催日：毎月第3木曜日

(但し、6・3月は第2木、8月は休会)

時 間：午後5時～6時半(参加費：無料)

会 場：朝日大学付属病院 会議室

内 容：症例検討会(小児・高齢者 各1例)、論文抄読会、情報交換および相談など

参加資格：摂食・嚥下障害の基礎知識を有する方

申込先：朝日大学歯学部付属病院障害者歯科 内 事務局 担当者 安田順一 宛

*氏名・所属・連絡先を記載し、下記にFAX!
TEL&FAX:058-329-1105(直通)

～事務局便り～ 年会費納入 受付中!

納入金額：平成19年度分会費 1,000円

納入期限：6月末日まで(前年末納者は2,000円)

振込先：郵便振替 加入者 岐阜県嚥下障害研究会

口座番号 00890-3-114142

*同封の郵便振込用紙をご利用ください。

*通信欄に「19年度分会費」とご記入願います。

*「振替用紙の控え」をもって 会員証とします。

*2年間会費を滞納すると、自動退会となります。

(注)未入会者は 入会申込み手続きが 別途必要!
問い合わせ：木沢記念病院ST室 研究会事務局まで

平成19年度 研修会 年間スケジュール

成人部門

都合により、日時・場所・内容・講師などを変更する場合があります！

●摂食・嚥下リハ 初級課程 講習会

日時：平成19年8月12日（日）10時～15時半
場所：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室
（美濃加茂市古井町）

参加費：会員 1,000円 非会員 3,000円

■第1回勉強会

日時：平成19年6月23日（土）14時～17時
場所：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室
内容：「脳局在機能の基礎知識、脳CT・MRIの読み方、胸部X線の読み方、基礎的な嚥下食」

講師：加藤貴之氏（木沢記念病院 脳神経外科医）

参加費：会員 1,000円 非会員 2,000円

■第2回勉強会

日時：平成19年7月28日（土）14時～16時
場所：朝日大学 歯学部 1号館 3階 第4大講義室
（瑞穂市穂積）

内容：「口腔ケアと口腔機能訓練」

講師：玄景華氏（朝日大学歯学部 助教授）

参加費：会員 1,000円 非会員 2,000円

■第3回勉強会

日時：平成19年9月29日（土）14時～15時半
場所：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室
内容：「高齢者の嚥下障害とその予防」

講師：長縄伸幸氏（鵜沼中央クリニック 院長）

参加費：会員 1,000円 非会員 2,000円

■第4回勉強会

日時：平成20年3月8日（土）14時～16時
場所：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室
内容：「症例検討会」

参加費：会員 500円 非会員 1,000円

小児部門

●小児摂食指導講習会（通算 第5回）

日時：平成19年7月15日（日）10時～17時
16日（月・祝）9時～12時
場所：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室
内容：「摂食障害児の口腔機能の発達・評価・支援の実際」

講師：芳賀定氏（芳賀デンタルクリニック 歯科医師）

■第1回勉強会（通算 第21回）

日時：平成19年6月16日（土）9時～16時半
場所：岐阜保健短期大学医療専門学校
（旧 豊田学園医療福祉専門学校、岐阜市東鶉）

内容：「重度脳性麻痺児者の呼吸機能へのアプローチ、生活支援」（講義、実技演習）

講師：染谷淳司氏（東京小児療育病院 理学療法士）

■第2回勉強会（通算 第22回）

日時：平成19年9月29日（土）13時～17時
30日（日）9時～15時

場所：恵那市こども発達センター・にじの家

内容：「育てにくい子にはわけがある～広汎性発達障害への感覚統合アプローチ～」

（講義、模擬演習、治療場面の見学）

講師：木村順氏（療育塾ドリームタイム 作業療法士）

■第3回勉強会（通算 第23回）

日時：平成20年2～3月頃（土）午前&午後
場所：未定

内容：「症例検討会&交流会」

講師：山川真千子氏（日本ボバース研究会 言語聴覚士）

第10回 学術講演会・総会

日時：平成19年12月9日（日）9時～16時

場所：セラミックパーク MINO（多治見市東町）

内容：午前 特別講演「食支援を考える

～小児期・成人期・老年期を通して」

講師：向井美恵氏

（昭和大学歯学部口腔衛生学教室 教授）

昼時 嚥下障害補助食品&口腔ケア用品の展示

嚥下障害関連書籍類の販売

「歯科衛生士による 口腔ケア体験」コーナー開設

午後 調査報告「岐阜県における摂食嚥下障害

リハの動向～アンケート調査結果から」

教育講演「摂食嚥下リハビリテーション

の実際～使える訓練法と最近の知見～」

（岐阜県嚥下障害研究会 豊島義哉会長）

参加費：会員 2,000円 非会員 3,000円

—編集後記— 今年度より編集担当者が3名に！内容もパワーアップして『モグモグ通信』お届けしたいと思います。（田本）